チャド共和国

【国名】

●「チャド湖」が由来。「チャド」は現地の言葉で「広大な水のある地域」を意味する。

【国旗】

●青は空，希望，湖，南部の農業地帯，黄は太陽，鉱物資源，北部の牧畜と砂漠，赤は独立の闘争で流れた血と犠牲，民族団結・進歩を表す。チャド国旗とルーマニア国旗は酷似しているが，チャド国旗は若干青が濃い。

チャド国旗

【国土】

●アフリカの中央部に位置する内陸国。国内の３分の２が砂漠地帯。面積は日本の約 3.4 倍（128.4 万㎢）。首都はンジャメナ。人口は 1,321 万人。

【消えゆくチャド湖】

●チャド，ニジェール，ナイジェリア，カメルーンの４か国にまたがる浅瀬の湖。雨季と乾期で面積が２倍に変化する。雨季には，多様な動植物が生息し，湿地帯を利用した農業も発達。浅瀬のため漁業は未発達。

●チャド湖は干ばつ，灌漑農業や牧畜により急速に縮小し消失が危惧される。湖水面積は 1960 年代前半の 2.5 万㎢から，2010 年には 15 分の１程度へ縮小。

●化石の分析等から，チャド湖は過去千年間で６回干上がったことが判明。湖の北西部には，過去に湖が干上がった際にできた砂丘の形跡がある。

【チャドの代表的な料理「ムヌ」】

●ゆでた豆を発酵させたもの。味は納豆に近いが糸はひかない。

【脚光を浴びるチャド軍】

●砂漠という大変過酷な環境を生き抜いてきたチャド人はタフで勇敢。

●チャド軍は現在，マリ及びサヘル地域の平和と安定の回復を目的として活動する「国連マリ多面的統合安定化ミッション（MINUSMA）」及び「Ｇ５サヘル合同軍」に参加。また，チャド湖地域では，共同多国籍軍（MNJTF）に参加し，イスラム過激派組織「ボコ・ハラム」対策に従事。アフリカの地域の安定と平和に大きく貢献。

【風光明媚な湖や山々】

●砂漠の印象が強いチャドには，美しい湖や山々があり観光資源の潜在性は高い。

●エメラルド色に輝く 18 の湖が連なるウニアンガ湖群は，2012 年にユネスコ自然世界遺産に登録。人々のみならず，ラクダやワニなどの動物たちを惹きつけ，生命の憩いの場所となっている。

●エネディ山の風景は，砂漠の砂が堆積岩（砂岩）を侵食した，自然による芸術作品。

【ボロロ遊牧民の祭典「ゲレウォール」】

●チャド中部のドゥルバリ周辺で行われる，遊牧民族ボロロ族の祭典。普段はチャドから中央アフリカにかけて離れて暮らす氏族が集い，お互いの無事を称え合い情報交換する，一年で最も賑やかな行事。男性は化粧，装飾具により，自らの美を演出。

【人類最古の祖先「トゥーマイ」】

●2002年，チャド北部の砂漠で，仏調査隊が，ほぼ原型を保った約700万年前の猿人の頭蓋骨と下顎，歯を発見。世界最古の頭骨とされ，「サヘラントロプス・チャデンシス」，現地語で「トゥーマイ（生命の希望，の意）」猿人と命名。チャド国立博物館に展示されている。

●2005年の愛知万博のテーマ館「グローバル・ハウス」では，科学技術により復元された「トゥーマイ」の頭骨が，「人類最初の顔」として世界初公開された。　（了）